



# さくらみ川

第五〇号 平成十六年七月十五日

熱日高彦神社社務所

電話 〇二四 六一 〇四一

atuhitaka@hitaka.org

トーロ口ヒャラヒャラ トヒャラリーロ ヒャーラヒャラ… ドンドンカラカ…  
 枝野小学校の午後の体育館。汗だくのおじさん、お父さんと、真剣な表情の子供たちが、獅子舞の習得に悪戦苦闘。「獅子は寝ていて！ 獅子とり役はここで2拍手 はいパンパン！」  
 6・7月中、週2時間の特訓で何とかかわいい9組の獅子舞のできあがり。  
 3年生の総合学習は、ふるさとの歴史・伝統にふれること。体験することで、より深く理解できたのではないのでしょうか。ひょっとすると後継者も生まれるかも。  
 島田神楽保存会の先生方、お仕事の合間をぬっての指導、ご苦労様でした。  
 熱心に指導された担任の先生、ご協力いただいた先生方、おつかれさまでした。

8月5日 夏祭り

たきぎ  
 薪神楽

紙とつろろ

打上げ花火

期日 平成16年8月5日(木)  
 日程 午後2時 紙とつろろ掲揚

3時 触れ太鼓

5時 祭典

6時半 神賑行事

8時半 巫女舞 神楽など

打上げ花火

終了

奉納 巫女舞(地元女子)

神楽(神楽会・こども神楽)

特別奉納(当日お楽しみ)

紙とつろろ(枝野小学校児童)

枝野幼稚園児

角田養護学校児童

はぐくみ学園利用者

奉仕 有志会によるふるまい

生ビール 焼き鳥 かき氷など

打上げ花火の奉納を承ります

一口3千円 各区総代または社務所まで

# 悠久の歴史と

## 御神徳を記念して

### 御鎮座一九〇〇年記念事業検討委員会設置



けて本年度中をかけて検討することになりました。

委員会は役員会が組織し、役員、総代、神職で構成し、必要に応じて有識者にも加わっていただく予定です。これからの神社のあり方や、氏子・崇敬者の利便、地域への貢献などを踏まえて、検討を重ねて行きたいと思えます。

(挿絵)「靈剣図」猪飼嘯谷筆 熱田神宮蔵  
古代武人の武装姿を描いたものである。靈剣図とある通り日本武尊の勇士を描いたものといわれる。

### 「カンゾウ」(萱草) (ユリ科)のなかま

今年、空梅雨のようであるが、今、熱日高彦神社の社林縁や民家近くの道端、土手などには花が咲き始めたカンゾウが見られる。これらの大部分はヤブカンゾウである。しかし、角田市内には日本本来のノカンゾウも自生している。ただ、非常に少なく探すのが大変である。

ところで、ヤブカンゾウはもともと中国が原産地で、古い時代に渡来して日本各地に広がったと言われており、北海道から九州まで分布している。数の少ないノカンゾウは、主に溝の縁

や原野に自生している。原野に多いのでノカンゾウと言い、花色の変化が多く、特に赤色の強いものをベニカンゾウと呼び珍重する。

さて、両者を簡単に見分けるポイントは次の点である。ノカンゾウの花は一重咲きで、ヤブカンゾウの花は花びらの枚数が多く八重咲きであり、しかも固体全体が大振りである。

この野草も日本人は主に食べ物として利用してきた。春先の若芽、夏のはじめの花茎と蕾、夏の花は山菜として利用範囲が広い。このうちでも特にお袋の味として若芽の酢味噌あえがなつかしく、この年になっても春の若芽を摘みにいく。

先頃、ユリの花として乾燥食品を買ってきたことがあるが、これは栽培種のシナカンゾウの花と言ったことであつた。

梅雨明けも近い、ノカンゾウを見に行こう。



蛇足 漢方で言うカンゾウは「甘草」と書き、マメ科の植物で、これとは別である。

日本海の飛鳥や佐渡の海辺に生えるトビシマカンゾウはニッコウキスゲのなかまである。

(文/小島和夫氏)

熱日高彦神社が延喜式神名帳に記載される、伊具郡内でもっとも古く由緒のある神社であることは広く知られています。「日本書紀」の記述では景行天皇の四十一年頃(西暦一一一年頃)、日本武尊(やまとたけるのみこと)が当地を訪れたとされます。そのときが当社の創祀とすると、平成二十三年頃が一九〇〇年に当ることになります。

先の役員会並びに総代会において、この

ことが議題に取り上げられました。記念すべき大きな節目の年に向けて、更なる御神徳の発揚のため事業を起こす案が提出され、この重大さにかんがみ、検討委員会を設



社頭あれこれ

ベテランの熱意 若者の力

平日の春季例祭に担ぎ手六〇名



おだやかな晴天の下、春季例大祭が盛大に斎行された。懸案であった神輿渡御には六〇名ほどの奉仕者が参加し、島田の村々を力いっぱい練り歩いた。

本年は新体制になってから初めての平日開催となり、神輿担ぎ手の確保が課題であった。総代・神輿世話人は早くから危機感をもって勧誘にあたり、初めての試みでテレビ、ラジオ、新聞などでもPRした。その熱意に多くの方が応えてくださった。「担いでこそ神輿だ、参加したい」と、氏子外からも参加者があった。

中・高校生に声をかけたのも初めて。担ぎは無理でも旗や神は持てる。何より神輿担ぎの面白さを身体で感じ取ってもらえたのではないかと。神輿を迎える夫々の御旅所でも御奉獻とあたいたいもてなしをいただいた。氏子中のお力をいただいてこそ良いお祭り。皆さまに感謝申し上げます次第である。

なお反省・交流会を八月二十九日に予定。

地区総代会研修で神輿の事例発表

六月二十一日に角田市伊具郡神社連合総代会総会が開催され、続いている研修会で当社社の「神輿渡御継承事業」を報告した。当神社総代佐藤勝征氏、香取神社総代長小島克見氏、禰宜の二名で、神社の歴史、二社の関り、神輿渡御継承への取り組みなどを語った。ほとんどの神社で神輿を担がなくなっており、復活に苦慮しているところもあると聞く。身近で切実な話題として興味をもって聞いていただけたようだ。後の直会の席でも、お神酒を介して活発な意見交換がされた。



子眉嶺神社に幟旗が林立

今年の春祭りに神名変更した子眉嶺神社に対し、幟旗を奉納することをお願いしたところ、総数で約七〇旒の奉納があり、現在整い次第に、すでに五〇本が境内に立ち並び、大変賑やかになった。夏祭までには全部立て終えることにしている。なお、奉納につき当方の説明が不足していた点があり、おわび申し上げます。

もともと内山の森にあつて、見渡す範囲の祖神の宮と考えられており、年々の農事の前にお山に登ってみ魂をお迎えして、農事をはじめ生業の繁盛、子孫繁栄を祈願してきた神様である。山の神さまであると同時に稲荷さまでもある。

現在深

刻な嫁不足や少子化の悩みから早く脱して、立ち並ぶ幟旗の賑やかな郷土にしたいものである。



# 大森登山、登山の標識も



今年も郷土の霊峰大森山に若者たちが登った。

第一回目は五月八日、子ども会育成会が中心になって計画し、二十八名参加で、見事なつつじの歓迎を受け、バー

ベキューに舌鼓を打った。  
二回目は六月二十日に、大森会主催で、万年青会など参加者老若合わせて二十名。すでに茂り始めた若葉を刈り払い登ったが、それだけに頂上の涼しさは格別。ビールも美味い。

大森山は、安永風土記書出では「影蔵山」となっており、大正十五年発行の『伊具郡誌』には「大森山」と呼んでいる。既報、この他に「内山大森」がずっと手前にあり、ここに蚕養嶺神社があった。いずれ「大森」と呼ばれるところは祖霊の寄る処と言われ、内山は大森山の遥拝所であった可能性が高い。郷土の霊峰である。

この日は、懸案であった、簡易な標識を立てて、昨年設けたお社に御霊をお祀りした。

# 神社で結婚式



六月十三日(日)大安吉日。社殿において新しいご夫婦が誕生した。門馬強さんのご子息、希道くんと、(旧姓)神(明)子さんのカップル。「ぜひ鎮守さまで」との願いで

実現。神様の御加護をいただき、未永くお幸せに。近年こうした挙式が増えているよう。華やかさよりも本物を志向する傾向にある。良いことだ。

# 佐藤庄一前総代長

## 県連合総代長表彰に浴す

今春を以って引退された前総代長佐藤庄一氏が、六月十七日仙台市の電力ホールで行われた宮城県神社総代連合会総会・宮城県神社関係者大会において、長年の神社奉仕に対して表彰され、県

内から集った千人の神社関係者の祝福を受けた。氏は、世話人、総代、総代長、責任役員などとして二十余年間神社に奉仕し、なお神楽会長としても現在、後進の指導に熱心に活躍している。その間社殿修復、神輿担ぎ復活、社務所整備、さまざまな祭りの振興など、枚挙に暇がない。

### 「ご奉納」ご奉仕」

- 三区 小野 凱久さん 金一封
- 三区 戸村 健男さん 金一封
- 二区 門馬 強さん 鈴の緒一本
- 三区 佐藤 善一さん 伊勢光 伊勢神宮にも
- 各区 神社総代各位 春祭典神饌用野菜等
- 四区 佐藤 孝一さん 奉献野菜
- 横倉 塚目 克子さん 月次祭神饌用野菜
- 一区 はぐくみ学園 境内清掃
- 一区 角田養護学校 境内清掃

### 社頭暦

- 七月 一日 月次祭
- 二日 海の日
- 八月 一日 月次祭
- 五日 神社例祭
- 七日 七夕祭り
- 十三、十五 祖霊祭
- 十五日 忠魂碑慰霊祭(午前9時)
- 九月 一日 月次祭